

## 東京工業大学環境報告書の外部監査報告

### 監査概要

全体的には、日本の代表的な総合理工系大学の環境報告書としてエコロジカルで持続可能な社会の創生に資する科学技術研究や人材育成など研究・教育面で環境活動の社会貢献を強調した優れた内容となっています。学内外の利害関係者（ステークホルダー）にも理解しやすい具体的な記述がなされていますが、以下の点を今後検討されることを期待します。

1. 環境マネジメントの目標と行動（9 ページ）に、環境負荷の低減活動として東工大の環境目標値が明示されています。例えば、大岡山キャンパスにおいては、エネルギー使用起源の温室効果ガス総排出量の目標値を、2010 年度から 2014 年度の 5 年間で東京都条例に従い毎年度 8%削減としています。これは非常に厳しい数値です。この目標値を実現するためにどのようなエネルギー使用についての取り組みが計画されているのでしょうか。目標、特に目標値を上げるのであれば、それを実現するための計画を提示する必要があると思います。教育研究機関での炭酸ガス削減、エネルギー使用の効率化への取り組みは不可欠です。環境エネルギー機構を設置されて、積極的に温室効果ガス削減を技術革新により達成しようとしている東工大ですから、目標実現のための先進的かつ具体的なエネルギー管理計画の提示を期待します。

2. 第 5 章で環境負荷の低減についての具体的な数値が示され、〇〇年度に対して〇%増加とか、〇%削減とか記述されていますが、基準年がいつで目標値があるのかないのかが明確ではありません。「環境目標・環境計画の達成度」の項目を設け、エネルギーやそれ以外の項目の数値目標と達成度を明記し、構成員が進捗状況を定量的に把握できるようにして、環境負荷低減などの取り組みを促進することが望まれます。

3. 内外とのコミュニケーションも重要です。特に地域住民など外部のステークホルダーとの間で発生する環境関連情報について、どのように対応されているのかについても明示した方がよいと思います。

2010 年 8 月 20 日

外部監査員

京都工芸繊維大学環境科学センター

教授 山田 悦